

屋上緑化コーディネーターのためのスキルアップ研修

『藤田茂と行く小石川植物園探訪』に関する報告

(文責 屋上開発研究会 資格部会 橘大介)

■はじめに

屋上緑化コーディネーターのためのスキルアップ研修として、「藤田茂と行く小石川植物園探訪」というテーマで研修会が開催された。実施概要は次のとおりである。

- ・開催日時：2015年6月6日（火）13時00分～15時30分
- ・研修場所：東京大学大学院理科系研究科附属植物園（小石川植物園）
- ・研修目的：前回の研修では、「屋上緑化・壁面緑化の植物を考える」と題して、座学による研修会が実施された。今回の研修は、実際のフィールドに出て、現地で五感を働かせながら植物の種類、形態、生活史などを肌で感じながら、植物への理解を深めるという目的で実施された（写真1～2参照）。
- ・研修参加者：24名（スタッフ含む）
- ・講師：緑化技研代表 藤田茂



写真1 藤田講師による講義（対象植物：ソテツ）



写真2 参加者との集合写真

■研修内容について

植物観察は、植物の種類を同定するだけでは面白いとは言えず、形態、生活史、生育管理方法など多岐にわたった項目をなるべく多く理解することが重要といえる。この点を踏まえると、フィールドに出て実際の植物を観察し、そういった指導を受けることは極めて重要といえる。その一方でそのような指導のできる先生・講師の数は意外と少ないともいえ、特定非営利法人「屋上開発研究会」ならではの企画といえる。同講座で藤田講師が紹介した植物解説の概要の一部を紹介すると、以下のようになる。

① 葉の感じが違うぞ！（種の同定について）

私たちがフィールドで植物の種類を同定する場合、外観・形態による判断が一番確実で一般的といえよう。ここでは、トウジュロとワジュロを用いて、葉先の垂れの有無によって判別できることが解説された（写真3参照）。

② きれいな花だけど何に使うの？（植物利用について）

植物は私たちの生活にとって切っても切れない役割を演じており、多くの恩恵を受けている。例えばこのハマナス（バラ科バラ属）、名前を聞くと「知床旅情」を思い出す方もいると思う。ハマナスの名は、自生地が海岸で実がなしに似ており、ハマナシから由来したといわれている。この花はきれいだけでなく、花から石油エーテルを抽出し香料として利用でき、実はローズヒップとして食用になるということである（写真4参照）。

③ フジに花が咲かないんだけど・・・（植物の管理方法について）

植物は、その維持管理方法を誤ると、せっかくの綺麗な花を楽しめなくなる。例えばこのフジ、最近よく「花が咲かないんですが」といわれることがある。実は維持管理方法が間違っているわけである。フジは剪定せずに伸ばしたい放題に管理すると花をつけなくなる。整枝剪定してつるに十分な太陽光が当たるようにしたり、あるいはつるが下を向くようにつるの輪を造り結実を促すことで、花をつかせるようにできるのである。つまり植物個々の生理を踏まえた維持管理が大切ということである。（写真5参照）。

④ このトゲトゲはなんだ？（植物の病害虫について）

ヤマナシの葉にトゲトゲがいっぱい付いている、何だろう？農業従事者や樹木医ならよく知っているなしの赤星病である。ビャクシン属の植物が中間宿主になるため、なしの生産地などではハイビャクシンなどの植物の植栽を条例で禁止している（写真6参照）。

⑤ いつもの大きさと思ったら大間違い！（環境による大きさや形態の変化）

この高木はなんていう名の樹木なのだろうか？意外にもトキワマンサクだった。私たちが生垣などで見るベニバナトキワマンサクは背が低いのだが、常緑小高木に分類される樹木なのである。生育環境や維持管理方法によってはこのように大木になるということ。植物観察には思い込みは禁物のようだ（写真7参照）。

⑥ 世界一のつぼな樹木は？（楽しく植物のことを学ぶ）

ここ小石川植物園には、植物学の発展を示す植物や世界一と称する植物を見学することができる。例えば世界一背の高い樹木は何で、何mくらいまで成長するのか？それは写真8に示すセコイヤメスギ（センペルセコイヤ、レッドウッドなどと呼称されることもある）であり、約120m位まで成長するとのことがある。つまりここに来ればその答えがわかり、実物を見ることができるといわけである。



写真3 トウジュロの解説（葉が垂れない）



写真4 香料として利用されるハマナス



写真5 フジの花をきれいに咲かせる管理方法



写真6 植物の病害虫の知識も大切（赤星病）



写真7 トキワマンサク（思い込みは禁物）



写真8 セコイヤメスギ（樹高世界一）

■おわりに

今回の研修は、フィールドに出て、五感を働かせて植物観察を行うものでした。植物観察というテーマから女性参加者が多く、また受講者から多くの質問があり、有意義な研修ができたものと考えられる。こういった植物観察に適したフィールドは、東京だけでも、新宿御苑、国立科学博物館附属自然公園、多摩森林科学園、東京都神代植物園、北の丸公園、高尾山など枚挙にいとまがなく、また違ったフィールドでぜひ実施していただきたいものである。

それでは、次のスキルアップ研修およびその報告をお楽しみに。